

## CONTENTS:

- P1 FDフォーラム開催、寄稿(1)  
 P2 寄稿(2)、教職員研修ワークショップ開催  
 P3 寄稿(3)、初任教員向けプログラム実施  
 P4 寄稿(4)、2013年度前期授業アンケート  
 結果報告

## 全学FDフォーラムを開催しました

## 2013年度第1回(通算17回)FDフォーラム 7月23日開催

今回は本学情報科学部情報メディア学科長・教授 佐野 睦夫先生から「自己理解を深める体験学習型研修プログラム—新入生導入教育に対する効果検証—」をテーマに講演いただきました。

本学では各学部、学科独自の企画で新入生オリエンテーションを実施していますが、今年度、情報科学部情報メディア学科では「自己の探求プログラム」を取り入れられました。これは、チームビルディングの中で自分の持ち味を発見し、自己理解を深め、自己肯定感や自己効力感の確立が期待できる体験学習型の新しい教育プログラムで、既にいくつかの大学で導入されているものです。

講演では、最初に研修プログラムの狙いと導入の経緯が説明され、フォーラム参加者にはプログラム内容の一つであるワークに実際に取り組んでもらいました。その後、学生へのアンケート結果による教育効果検証結果が報告されました。佐野先生による報告の中では学生インタビュー映像が放映されましたが、現代の学生像を象徴するようなコメントの数々に、会場は笑顔に包まれました。

本学教員による講演は1年ぶりでしたが、日頃接する機会の少ない他学部の取組みに接し、190余名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

なお、今回は初めて枚方キャンパス・情報科学部をメイン会場として実施しました。今後もFDフォーラムで学部・学科単位の取組みをご報告いただく機会を設け、情報共有を図ることができればとFD委員会では考えております。



講演の様子

映像を見ながら  
ワークに取り組む  
大勢の参加者  
(大宮キャンパス)

ワーク結果を  
共有する参加者  
(枚方キャンパス)

## 寄稿(1)「FDフォーラムに参加して」



学生部長  
(工学部 機械工学科 教授)  
西川 出

今回のFDフォーラムで紹介された情報科学部の新入生オリエンテーションでの研修プログラムの試み、参考になる点はいくつもあった。まず、冒頭に佐野教授から情報科学部の学生について

自分に自信がない学生の増加

PBL授業でグループにとけ込めない学生が相当数いること

ひいてはこれが学習意欲を低下させている

といった現状分析があったが、これは情報科学部に限らず、工学部においても当てはまる。すなわち自分から話しかけられない→友人が作れない→集団生活が苦手→グループワークが苦手という負の連鎖があり、これをいかに脱却するかが大きな課題となっているのは、どの分野の教育現場も同じではなからうか。

今回の紹介して頂いた体験学習型研修プログラムは、自己理解から始まり、他者理解、チームビルディングの体験へと発展していく完成度の高いプログラムであった。一方、受講学生からもほとんどすべて、ポジティブな感想や意見が出ていたように思う。ただ、専門的なワークが組み入れられれば、さらに効果的・効率的な成果が得られるのではないかとこの感想を持った。

もちろん今回のプログラムも、学生諸君の人間力育成のための有効な解決策の一つであると思うが、前回のFDフォーラムで小職から紹介させていただいたエンジニアリングプラクティスなどのPBLも有効な手法の一つと思われる。各学科はそれぞれ環境や条件が異なるので、一概には言えないが、内容を吟味、改良することによって、それぞれの学科により適したPBLが構築しうるのであろうし、それによって今回問題視されているような、「自分に自信がない」、「人と話ができない」などの人間力欠如を補っていけるのではないだろうか。

工学部機械工学科の新入生導入教育でも今年度から宿泊を伴うプログラムを取り入れた。今回のプログラムでは、自校史教育やキャリアデザインについての講義を行った後、実際の社会人とのふれあいを中心に企画した。これはかねてより機械工学同窓会から「何かしら在学生の役に立てることではないか」との提案を頂いていたこともあり実現した。同窓生の諸先輩方に協力を仰ぎ、学生時代にやっておけばよかったことや貴重な体験談などについて、ホテルの和室に車座に座って少人数形式でふれあう機会を設定することができた。さらに翌日には工場見学を実施し、機械工学の知識が就職後どのように生かされるかという現場を直接見学し、彼らに学修意義を植え付けることができた。さらにここでも同窓生から有益なアドバイスを頂くことができた。このオリエンテーションでは彼らが大学生になって初めての社会と接する機会を体験したことになるが、この体験はこれから大学で4年間、機械工学を学修していく上で貴重な礎となったと思う。

新入生オリエンテーションやPBL教育は学生の人間力向上にはもっとも効果的なアクションであり、実施はもちろんであるが、内容についてこれからも改良し続けなければならないと感じる。今回のようなFDフォーラムはそれを考える上で非常に重要な機会であることは間違いのないところであり、今回と同様、次回も有意義なFDフォーラムの開催を期待する。

## 寄稿 (2) 「FDフォーラムに参加して」



情報科学部  
情報システム学科  
教授 須永 宏

情報科学部では、合宿形式による学科別新入生オリエンテーションを昨年度より本格的に実施しています。学科別に色々と趣向を凝らし、新入生がこれから四年間各学科で学んでいくためのスタートを円滑に切ることができるよう考えています。コンピュータ科学科ではプロのダンススクールによる創作ダンスレッスンを受け、自分の殻を破り仲間意識を高めるという取組みをしています。情報ネットワーク学科では、生卵を詰め込んだダンボールを落下させ床面衝突時に何個卵を守るかというグループ競技をします。落下時の衝撃を緩和させる工夫をすることで、研究に対する取組みや協調作業の重要性を学びます。情報システム学科では、手計算でバランスシートを付けながらショップ経営をシミュレートするグループワークを行いました。コンピュータシステムというものが如何に社会基盤として必要なものかを実感しつつ、仲間とのつながりを築けるように考えています。

情報メディア学科は、株式会社ラーニングバリュー様への業務委託で「自己理解を深める体験学習型研修プログラム」を推進しました。この具

体的内容と研修結果報告が今回のFDフォーラムのテーマです。研修プログラムのいくつかは、他学科のオリエンテーションやキャリア系の授業でも取り入れられていたり、企業出身の教職員なら企業研修で実施した経験があったりするものですが、今回のオリエンテーションは二日間午前午後をみっちり使い、体系的な配置でトータルな研修効果が高まるような工夫がなされています。昨今の学生に多い「内にもりがち」な傾向を打破するというので、友達作り・大学への安心感の醸成・グループワークへの苦手意識除去の三つを大きな目標とし、114名の学生と学科所属全教員が「自己の探求」プログラムに取り組んだわけです。

本フォーラム参加者にも一つのプログラムを体験して貰いました。「あなたの学習スタイル」という各個人の学習・研究・業務への取り組み姿勢をプロファイリングするというもので、10個ほどのアンケート項目に回答することで、「具体的な経験」、「思慮深い観察」、「仮説化、閃き」、「抽象化、概念化」という四つの軸で自分自身がどのようなスタイルを持つかがわかります。どれかの特徴がピーキーに出るとというのが、うまく出来た調査法だと思えました。

本研修の実施前後および二・三か月経過後の時点でのアンケート評価の結果についても報告がありました。効果測定の結果、仲間とやっっていくことに対する苦手意識が改善され、今後の学生生活に対する積極性が現れ、他者への働きかけ力・発信力・自信の向上が見られ、所期の目的が達成されました。研修直後に結果が良いというのはよくある話ですが、二・三か月後の測定でも一定の効果が残っているということがポイントだと思えました。私自身来年度も自学科のオリエンテーションの取りまとめをいたしますので、本フォーラムで紹介された事項も頭に入れ、より効果の高い研修を行えるようしていきます。

## 教職員研修ワークショップを開催しました

### 2013年度教職員研修ワークショップ 9月3日・4日開催

2008年施行の大学設置基準では学士課程レベルでのFDが義務化されましたが、本学でも「授業アンケート」「授業参観」「FDフォーラム」「新任教員研修」など、教員を中心としたFD活動の実績を築いています。一方、職員サイドでは、SD活動としてキャンパス・ミーティングや学内研修などを行っています。

大学全入時代、大学のグローバル化、教育の質保証などをはじめとする様々な問題や課題へ対応するためには、教職員一丸となって私立大学淘汰の時代に立ち向かう必要があります。そこで本学では昨年度に引き続き、教職協働のFD・SD活動として「教職員研修ワークショップ(以下、WS)」を、姉妹校の摂南大学の協力を得て実施しました。

このWSは、摂南大学が先行してスタートされ、今年度が第5回となり、教職協働研修会として大きな実績を残しておられます。

本学においても教員と職員の絆を深めて大学の組織力を向上させるとともに、各学部学科・部署で、今後のFD・SD活動を牽引する役目を担う人材の育成を目的として、18名の教職員に参加していただきました。

WSは「授業に関する問題点」をテーマとして9月3日・4日の2日間にわたり開催されました(場所：大阪工業大学情報科学部)。総勢49名の教職員(教員34名、職員15名)が参加し、ファシリテーターは教職員(摂南大学教職員18名、本学教職員5名)が担当されました。

参加者はP1・P2のグループに分かれてセッションを行い、さらに小グループに分かれてプロダクト制作に取り組みました。グループワークでは、ファシリテーターの皆さんの熱意ある導きや助言を受けながら、各参加者が活発な討議を交わしていました。日頃、接する機会の無い教職員同士がWSを通して交流を深め、素晴らしい研修会となりました。



- 写真左上から順に
- ・全体オリエンテーション
  - ・グループ別セッション
  - ・グループワーク  
(プロダクト制作)
  - ・コーヒープレーク
  - ・グループ別集合写真

皆さん、お疲れ様でした！！



P1グループ参加者



P2グループ参加者

## 寄稿 (3) 「教職員研修ワークショップに参加して」

工学部 応用化学科 准教授 大高 敦

今回のワークショップでは【望ましいカリキュラムの立案能力を修得すること】を目的とし、「授業の問題点」、「カリキュラムとは」、「学習目標とは」、「学習方略とは」、「教育評価とは」として「問題点への対応」という5つのセッションについて、8名のグループ毎に「グループ内討議→作業→成果発表→全体討議」を行いました。グループのメンバーは、年齢・性別・立場・職種異なる方々で構成されていましたが、背景に関わらず自由に発言できる機会であったため、それぞれの議題において様々な意見を聞くことができ、物事を多視点から観察できる良い経験となりました。

また問題点を整理するKJ法(文殊カード法)、学習者の行動(知識・技能・態度)それぞれに対する学習目標やそれらを達成するための方略の設定方法、さらには教育評価という視点から捉えた行動目標(SBOs)の修正などを通して、「望ましい教育・カリキュラムとは?」ということ深く考えるいい機会となりました。

「教育とは、学習者の行動(知識・技能・態度)に価値ある変化をもたらすこと」「人はどう評価されるかによって学習態度を変える」など、感銘を受けた言葉はいくつかありましたが、その中でも次の言葉が最も印象に残りました。

「学んだことのたった一つの証は変わることである」  
この言葉を常に心に留め、本研修で得た知識や経験を今後の教育に生かしていけるよう日々努力していこうと思います。

最後になりましたが、本研修の主催・運営にご尽力頂きました事務局・ディレクター・ファシリテーターの皆様へ感謝いたします。



知的財産研究科 知的財産専攻 教授 箱田 聖二

本ワークショップに参加させていただき大変ありがとうございました。また、企画・運営をご担当された教職員の皆様へ感謝いたします。

本ワークショップの目的は「学習者にとって望ましいカリキュラムの立案能力を習得する」で、2日間で「キャリア形成入門(1年次前期200名を対象)」を仮想題材とし、少人数のグループで議論し講義計画を作成することで目的に到達する構成となっていました。講義計画の作成は5つのコースで構成されており、コース毎にその内容についての基礎知識を習得後、各グループで議論し、成果物を合同で発表し討論を行うものでした。

私が属したグループは「キャリア形成入門」のGIO (General Instructional Objective, 一般目標)を「将来なりたい自分になるために、自分・社会・大学を知ると設定しました。そして、GIOに到達するためのマイルストーンともいえるSBOs (Specific Behavioral Objectives, 行動目標)を7個設定し、成果物である講義計画を作成しました。

グループワークは短い時間で議論し成果物を出さなければならずタイトなものでしたが、職種や所属大学の違いに関係なくメンバーが積極的に意見を出しあい、また、役割分担が自然発生的に行われ、成果物を出ることができました。そしてワークショップの2日目にはグループとして一体感が醸成されたと思います。この点、本ワークショップの第2の目的だと思いますが、目標達成のために教職員が一体となって活動するという貴重な体験となりました。

今回学んだ事を今後の教育現場で実践し、学習者にとって望ましい教育を行っていききたいと思います。教職員が一体となって教育の改善を進める今回のような活動をさらに広く展開されることを期待します。



情報科学部 情報システム学科 准教授 椎原 正次

2日間に渡る教職員研修ワークショップに参加しました。授業改善のための問題解決の手順とカリキュラムの立案が、このワークショップの目的でした。情報科学部で開催されたので、比較的リラックスしてワークショップに望むことができました。6つのグループに分かれて、グループディスカッションを行いました。そして、その成果を全体で発表・質疑という形で進められました。時間的な制約があり、もう少し深く討議し整理しておきたかったと思えるほど、あっという間に2日間が過ぎ去りました。

グループディスカッションの間には、ファシリテーターによる体系的な解説があり、シラバス作成の際に疑問に感じていた点が解消できたという印象です。また、他大学や他学科の教員や職員の方と授業改善について議論し、知識を共有できたことは、非常に有意義でした。さらに、教育改革の講演DVDで拝聴したお医者様のお話は、いまでも心に残っています。

このようなワークショップに参加する機会が与えられ、良いメンバーと議論できたことは非常に幸運でした。研修終了後に頂いた修了証書には、少し感動しました。最後になりましたが、ファシリテーターのみなさまには、多岐に渡り丁寧なご教示を頂きました。心より感謝します。



入試部 畑田 沙紀

限られた条件の中、チームで一定の成果を上げることを社会では要求されますが、より多くの学生に授業をはじめ学生生活でそれを体験させ、実践力を身に付けてほしいと考えています。今回、分単位で綿密に計画されたワークショップでは、討議とプロダクト制作を繰り返し、大きな疲労感と少しの達成感により、「学び」そして「変わる」ことを身をもって体験しました。今回のSGD(スモールグループディスカッション)のような自主的に活動させる能動的方法は、講義や見学などの受動的方法に比べ、学ぶ側も教える側も労力を伴いますが、やはり効果は高いと実感しました。ワークショップ主催の方々のご苦勞に感謝するとともに、能動的方法であるPBL型授業を多く取り入れる本学の教育系職員の方々に敬意を表します。

私自身、若者を育成したいという思いは、教育学を学んでいた学生時代から変わりません。しかしながら、大学の事務系職員という職業は、配属される部署によっては「教育機関に従事している」という概念から多かれ少なかれ離れてしまいがちだと感じています。このワークショップを通じて、教育とは「ともに学び、ともに変わる」ことだと知り、それは教育を提供する組織で働く者の心構えであると気づきました。「学んだことのたった一つの証は、変わることである。」学生に価値ある変化をもたらすため、本学が社会から求められる大学であり続けられるよう、今後も尽力していきます。



## 初任教員向けプログラムを実施しました

2013年度初任教員向けプログラム 9月9日開催

滋賀県立大学教育実践支援室長・環境科学部環境生態学科 教授 倉茂 好匡先生を講師としてお迎えし、2012年度、2013年度に着任された教員を対象に「授業の基本」ワークショップを実施しました。

本学では2年前から新任教員研修として本プログラムを実施しており、今回で2回目となります(隔年実施)。

また「関西地区FD連絡協議会初任教員向けプログラム」の一つとして協議会との共催事業となっており、加盟校から7名(大阪人間科学大学、大阪保健医療大学、京都大学、四天王寺大学、姫路獨協大学、びわこ学院大学)、本学から23名、合計30名が参加されました。

ワークショップの構成は次のとおりです。

第1講 授業の基本① ー基本の基本ー

第2講 授業の基本② ー授業で陥りやすい罠ー

第3講 教材研究ワークショップ

ーグループワークとミニッツレクチャー実技ー

第1講から第3講で構成され、第1・2講は「授業の基本」に関する講義、第3講は「教材研究のグループワーク」となっており、教授、准教授、講師、助教、研究員といった様々な立場の方々が皆一様に熱心に受



講されていました。

第1・2講を経て、第3講では6グループに分かれて教材研究のグループワークを行い、最後に各グループで5分間のミニ授業を実施しました。

「おいしいみそ汁の作り方」という同じテーマでのミニ授業でしたが、6グループとも個性のある授業が展開され、倉茂講師からはそれぞれのミニ授業に対して講評が行われました。

参加者は、明るい雰囲気の中、ワークショップ全体を通じて、授業の準備・導入・展開の大切さやチョークの使い方・黒板の板書・話し方など、多くのものを修得しました。

## 寄稿(4) 「初任教員向けプログラムに参加して」

情報科学部 情報ネットワーク学科 教授 松井 進

2012年度及び2013年度着任教員を対象とした「初任教員向けプログラム」に参加致しました。

研修の内容は、講師の倉茂先生による「授業の基本：基本の基本、授業展開で陥りやすい罠」という講義、「おいしいみそ汁の作り方」に関する教材研究及び模擬授業を行うグループワークというものでした。

倉茂先生の講義は、授業における導入の重要性、板書の基本、話し方及び視線の置き方、具体的な発問の仕方、机間巡視の効果などに及び、非常に具体的で分かりやすいものでした。また、実際の授業実演もあり、良い授業と悪い授業の違いを理解することができました。

グループワークでは、学生に授業のヤマを気づかせるためのストー

リー作りの議論を通じて、授業展開の方法を学ぶことができました。

私は2012年度に着任し1年半の間授業を行ってきましたが、学生を引きつける授業、学生の理解度の把握、教えるべき内容と学生が理解できる内容のギャップ、学生の理解力の違いへの対応など、授業に関する幾つかの悩みを抱えておりました。今回の研修により、課題解決への貴重なヒントを得られたと感じております。また、研修に参加していた他の先生方も同じような悩みを抱えておられることが分かったことも本研修の大きな収穫でした。今後も意見交換を行っていく所存です。

後期の授業がまもなく始まりますが、今回の研修で学んだことを取り入れるべく、教材研究を進めていきたいと思っております。



## 2013年度前期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】

	第1回目(中間):2013年5月下旬~6月上旬(授業7・8週目)				第2回目(期末):2013年7月上旬~下旬(授業14・15週目)			
	科目数	履修者数	回答者数	回答率(%)	科目数	履修者数	回答者数	回答率(%)
学部	1,370	75,152	46,640	62.1	1,312	74,542	40,352	54.1
大学院	132	1,578	1,134	71.9	128	1,450	999	68.9
総計	1,502	76,730	47,774	62.3	1,440	75,992	41,351	54.4

【設問項目】

第1回目(中間)設問内容			
問1	これまでの授業において良かった点を記入してください。	問2	今後の授業において改善してほしい点を記入してください。
第2回目(期末)設問内容		選 択 肢	
問1	この授業は、「授業のねらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5:適切であった	4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切でなかった 1:まったくなかった
問2	この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5:進んだ	4:ほぼ進んだ 3:どちらとも言えない 2:あまり進まなかった 1:まったく進まなかった
問3	この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5:強くそう思う	4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問4	この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5:強くそう思う	4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問5	この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5:適切であった	4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問6	この授業の進捗度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5:適切であった	4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問7	あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5:100%~90%	4:90%未満~80% 3:80%未満~70% 2:70%未満~60% 1:60%未満
問8	この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成(準備)に何時間かけましたか？	5:3時間以上	4:2時間台 3:1時間台 2:30分~1時間 1:30分未満
問9	総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5:強くそう思う	4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問10	この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述	

【第2回目アンケート集計結果】 ※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9
工 学 部	共通科目	304	4.20	4.21	3.94	4.01	4.03	3.99	3.41	2.17	3.94
	都市デザイン工学科	50	4.17	4.15	3.89	3.94	3.90	3.92	3.64	2.85	3.94
	空間デザイン学科	48	4.16	4.17	3.88	4.00	3.96	3.95	3.58	2.53	4.06
	建築学科	72	4.22	4.21	3.89	3.95	3.99	3.94	3.46	2.82	4.06
	機械工学科	93	4.15	4.18	3.88	3.92	3.95	3.95	3.56	2.53	3.98
	ロボット工学科	42	4.26	4.26	3.87	3.98	3.98	3.95	3.47	2.42	4.02
	電気電子システム工学科	47	4.13	4.20	3.81	3.85	3.90	3.90	3.43	2.32	3.98
	電子情報通信工学科	58	4.02	4.07	3.72	3.75	3.81	3.77	3.33	2.67	3.82
	応用化学科	47	4.24	4.26	3.87	3.99	4.02	3.98	3.58	2.69	4.01
	環境工学科	36	4.12	4.15	3.88	3.95	3.91	3.87	3.57	2.57	3.96
	生命工学科	35	4.00	4.04	3.65	3.74	3.70	3.75	3.30	2.22	3.77
	技術マネジメント学科	14	4.81	4.48	4.86	4.81	4.81	4.67	3.81	2.19	4.90
	生体医工学科	26	4.17	4.33	3.92	3.92	4.00	4.00	3.58	2.00	4.33
	情報科学部	共通科目	150	4.02	3.99	3.81	3.84	3.84	3.86	3.21	2.18
コンピュータ科学科		53	4.07	4.09	3.79	3.86	3.88	3.87	3.30	2.59	3.87
情報システム学科		40	4.17	4.22	3.81	3.91	3.95	3.94	3.37	2.54	3.93
情報メディア学科		47	4.00	4.04	3.68	3.74	3.77	3.76	3.43	2.74	3.77
知的財産学部	情報ネットワーク学科	36	3.93	3.98	3.68	3.70	3.78	3.75	3.33	2.48	3.78
	基礎教育科目	44	4.32	4.32	4.06	4.11	4.15	4.11	3.38	2.64	4.02
	知的財産学科	40	4.17	4.17	3.93	3.97	4.01	3.97	3.51	2.53	3.96
	教職科目	30	4.30	4.28	4.18	4.34	4.28	4.24	3.64	2.62	4.28
	平均(合計)	1,312	4.14	4.16	3.86	3.93	3.95	3.93	3.43	2.44	3.93

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課  
TEL.06-6954-4083  
FAX.06-6954-4049  
kyoumuka@ofc.oit.ac.jp

~FD NEWSを教職員の情報共有にお役立てください~

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。  
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。